

岩本悠さん(右)と、後任の高校魅力化コーディネーター大野佳祐さん



『震源地』海士町の役割

「まずは4年後、東京オリンピックが開かれる2020年が重要なタイミング」と断言する岩本さん。学習指導要領が大幅に改訂されて2020年から順次実施され、大学入試ではセンター試験廃止といった大改革(※)が行われるなど、小学校から大学まで一気通貫で学びの変化が起きると言われており、「海士町など『辺境』からの変革と、中央からの改革がうまく融合すれば、日本全体の教育改革は飛躍的に進む。オリンピックを機に世界へも『魅力化』を発信でき、海士モデルの海外輸出・世界展開が加速するはず」と予想しています。

また、「そのために、海士町は常に『震源地』であってほしい。挑戦をやめず、進化し続けていくことが海士町の役割です。そうしているうちにUターン人材も帰ってくる。持続可能性も上がる(岩本さん)」

隠岐島前で生まれた教育改革のさざ波が大きくなり、いずれ大きなうねりとなって、日本を、世界を変えていくのかもしれない。今回の島会議では、そんな可能性が示されました。

島ぐるみ教育で

地域の元気が続く!

壮大なビジョンが描かれる一方、海士町が「現場」で取り組む『教育魅力化による地方創生』とは、「学校を魅力化することで若い親子が集まり地域が活性化し、学校と地域が溶けあい、地域総がかりで人づくりを行うこと」で、さらに学校が魅力的になつていく(隠岐国学習センター長の豊田庄吾さん)、このような好循環で、いつまでも島の元気が続いていくことです。

保育園、小学校、中学校、高校、そして大人に対する社会教育。この町での「学び」・「教育」を考えると、ことはずべて、島の未来を考えることに直結しています。

住民の皆さんそれぞれの関わり方で、『教育魅力化』についてのご理解と応援を、どうぞよろしくお願ひいたします。

この取り組みに関する詳細、お問い合わせ等は、島前地域教育魅力化プロジェクト事務局まで。

TEL 0851420114

役場総務課内 濱中、大野

★島前高校魅力化プロジェクトの公式ホームページもご覧下さい。

<http://miryokukakadozen.ed.jp/>

海士町役場からのお知らせ

職員等人事異動について (平成28年10月1日付)

配置換	田中 伸夫	(旧) 総務課 (新) 健康福祉課
配置換	中川 実	(旧) 住民生活課 (新) 総務課
配置換	花岡 和恵	(旧) 健康福祉課 (新) 住民生活課

(※) 大学入試改革 : 共通1次試験から大学入試センター試験に代わって以来30年ぶりの大改革で、センター試験が廃止され、新共通テストが導入される。「知識・技能に加え、それを応用する「思考力・判断力・表現力」、そして「主体性・多様性・協働性」、これらをバランスよく身につけさせることで、時代の変化に適應できる人材を社会に送り出すことが今回の教育改革の狙い。